

★私の意見

# 町内福祉への

# ためまぬ努力を

西村 義一

〈大石南町町内会代表〉



大石南町の戦前は白砂青松の地であり大石川は白川とも呼ばれ水清く点石はあくまで白く水は通行人の飲水にされていた位です。夏は葦合区全小学生的の海水浴場、また大石川から岩屋の浜辺にかけては元県立商業学校、神戸高商、または大阪商船会社、日本郵船会社或はOB等のボートレース場ともなり、また外国人のヨットハーバーあり、海岸沿には日本で有名な酒造家の酒蔵が軒をならべた生活環境の最良の地であったところです。

戦後原口市政により産業優先政策を至上の号令とし日本石油、小野田生コン、出光興産、続いて神戸製鋼瀬浜工場等全市重油使用量の六パーセントを神戸一社にて消費する巨大なる工場の誘致を一方的にせられ、それに列んで摩耶阜頭コンテナ輸送用荷車の操車場の新設により町内よりの南方全面の交通を遮断せられ、北側全面には国道四十三号線並に神戸高速道路、また東側は大石川により西側にのみ開放せられた世に言う歯車の谷間に人為的に孤立化された地域に騒音と煤塵の公害と闘っている大石南町であります。我々町内五百五十世帯の会員は市の此の地に対する行政がどうあろうとも心を和して町内福祉に満一するため奉仕しております。四十三号線国道の下に有る唯一つの北に通ずる地下道も毎日欠す事なく婦人グループにより清掃し、交通安全、文化厚生、保健衛生、防火防犯の諸事業も町内に住む人々のため全会員自らの福祉を念願するため社会奉仕事業を行ない、よくぞこの町に住みついてよかったと思う町作りをしております。また私達は老人憩いの家の建設のために全力をあげて各方面、特に神戸市当局に対して陳情懇願することとは私の終生の願いです。貧困家庭の老人、雨の日も晴の日も寒い日も外に出るように言われる老人、三三五五相寄り焚火を囲む老人に憩いの家を我々の手で各方面に働きかけ、日当りのよい部屋で男女の老人がいそいそと集まり碁盤を囲む老人、寝ころんで話し合っている老人、楽しみに茶を呑む老人の絵模様を夢見つづけて当路の人々に腰を曲げ頭を下げつづけている私達であります。

# White Haven®



□神戸にホワイトヘブンの  
あるお店

**SANOHE**

元町2丁目 Tel 331-4707-8

*Salon E'legant*

**SANOHE**

トアロード Tel 331-1952

東京渋谷東急百貨店本店2F  
特選サロンサノヘコーナー  
神戸そごう3F特選サロン  
サノヘコーナー

大阪阪急百貨店サノヘコー  
ナーは11月19日より2F  
ハンドバック小物売場に移  
転しました。



**GRAN DEPAR CO.,LTD.**

株式会社 グラン・デパール

芦屋市業平町70芦屋川アーバンライフ606号

T E L. 0797 <31> 8 2 3 2

## 随想三題



カット／河本和子

### 最近思うこと

西本昭太郎

△詩人△



「キミは乙女座かな」

とボクが声をかけるのは、きまつてハネハネ族△ハネツカエリ△の皇女に限るのである。何故なら不毛の翳を宿し、しかもアクチュアルであり、現代そのものだからである。そして愚かにも、丑であろうか、寅であろうかなど更に追加注文する。二昔も数字を編む仕事をしたボクにとって相手を二、三才老いさせて、そのゲキリンにも触れず、タブーである年令を云

わせてしまう。

西歴でなく、ハネハネ族は昭和二十五年以降という。その度に昭和ヒトケタ生れのボクはダウンする。事ここに到るとおそろしくて、ふれたくなつたものにボクはふれざるを得ない。即ちこの国の年令別人口ウエイトである。昭和45年国勢調査によると次の通りとなっている。20才以下が31・7%。20代が20%。30才代が16・2%。40才代が12・7%である。30才以下が実に67・9%を占めている。このことはとうとうと流れる日目のなかにあって、流される側のカテゴリの中にボクが入っているということの意味し、きびしい現実である。

かつて人の世を予知し、人生いかに生きるべきか、自らを問うた

10代の後半、主義、芸術、宗教のうちボクがそのひとつを選んだとしても、深く年令を推積させたいま年令による実感は身にしむふもいがする。

戦後、鎖国状態から放たれ、30年後半からの高度な成長によって起った産業間格差の縮小、所得の向上△名目に近い▽少産少死による過保護、男女同位、失業皆無、表面は実に華かな、この国の現状あるときボクはこの国にあっては△文明は人間の外からやってくる▽と詩に歌ったことがある。現在そいつは消費に移り、烈しい消費文明△はインフレ昂進策と、企業のすざましいPRによってさらにエスカレートする。しかし誰もこの時の流れをとどめることはできない。あの三島由紀夫でさえも―彼は己のなすべきことをすべて為し、自己とのかかわりから超えたわけだが―ボクは幸いにも彼ほどの仕事もしていないので、密に自己とかかわりあっている。流動かならず流動ならずと思うころで。

さて恣意によって繰返される消費の果ての不毛を負うものと、消費を娯楽のごく使用するものと、交錯の上生れるものに今や期待する他はない。それは与えられた喚起せしめられたものにヘキエキし自ら求めるもののために、文明



は高度なものが要求されるとおも  
う。

詩においてもイメージの高さ、  
深さや、言葉の美しさ、詩の濃度  
が求められる。しかし現在の詩は  
そのひとつさえも満たしていない  
ものが殆どである。それを埋める  
ために心ある詩人はひそかに言葉  
の刃を磨く、深く年輪を推積させ  
たことによっておこる日日の大切  
さ、そして座してなお展開あるこ  
とをボクは今切実におもう。

未知な明日をわがマグサとして、  
大したことはこれからもおこるま  
いとおもっても、なお。

## 人形供養のことなど

竹田 道子

△作家△



雨の日、ごみといっしょにほう  
り出されていたミルクのみ人形を  
見てからというもの、各家庭で不  
用になった人形のゆくえが、ひど  
く気がかりになっている私である  
そんな私を、この秋のはじめ、

友人のMさんは、和田山町宮田と  
いうところの氏神へ案内してくれ  
た。本殿わきの小さなお社は、M  
さんが育ったころ、村中の古くな  
った人形を納めるところだったと

いう。当時はこんなにちゃんとし  
た社ではなく、板がこいとねやだ  
けのかんたんなもので、中には深  
い大きい穴がほってあり、こども  
心に大へんぶきみなどところだっ  
たそうである。人形は、身代りに災  
厄を托して祓う人かたとかあまか  
つなどいうかたしろがそのはじま  
りだということと思いあわせて、  
ここは、きつとその昔、祓いのあ  
とのかたしろをあつめるところだ  
ったのではないか、それが信仰の  
対象から愛玩物へ変化していった  
人形もおさめるところに移行し  
ていったのではないかと、私たち  
は勝手なことを話した。

私には、祖母がいたんでしまっ  
た人形に、ささやかな菓子包みを  
そえて紙につつま、野川へ流しに  
つれていってくれた幼ない日の記  
憶がある。祖母は富山の生まれで  
あった。後に鳥取の流しびなのこ  
とを聞くようになったとき、あれ  
も流しびな同様、古くなった人形  
に、持ち主の子の厄を托して送る  
心があったのではないか、あの菓  
子包みは、あるいは供物の変形か  
もしれぬなどと思いあたったもの  
である。

紀州の流しびな。淡島という港  
町にある紀州公の姫君のひな人形  
を秘蔵する淡島神社の行事で、こ  
こでは連台のようなものに、古く  
なった人形を山とつんで、若い衆

が海へかつぎ出し、流すのだと聞  
いたことがある。雪解けの水にひ  
っそり流す鳥取の流しびなとは対  
照的な海の民らしい流しびなのよ  
うである。

そのいずれもが、人形のむざん  
をさらすことなく葬ろうとした生  
活のちえともいえる行事に思われ  
てならない。人形の発生のおもか  
げがうかがえることも貴重なこと  
である。

が、土に還ることを願って野山  
にすてることも川や海へ流すこと  
も許されなくなってきたいの都市  
生活の現在未来はと思いきらして  
いた矢先、京都の宝鏡寺に人形塚  
があるときき、一日尋ねてみた。  
ここは門跡尼院であったため、入  
山された皇女の方の人形がたくさん  
秘蔵されていて、そのことから人  
形寺とも呼ばれる寺であるが、私  
は、近ごろのものらしい人形塚に  
心ひかれた。御所人形の彫りの浮  
びあがつた塚はご門の右側にあっ  
た。「人形に住所、氏名とお志を  
添えてお持ちくだされば、お火あ  
げして灰にして人形塚へおさめ  
します。十月十四日、人形供養の  
日には、総供養もいたします。」  
とは、声の美しい尼さまのことば  
だった。

各地にまだ残っているかもしれ  
ない在来の民俗行事は大切に残し  
ていきたいものだし、一方また、

現代にふさわしい新しい「民俗」を生み伝えていきたいものとも思うのである。

## 戦後からの元町に

思う

麻生 一郎

△新光ギャラリー▽



終戦とほぼ同時に、一家の疎開先である、鈴鹿市に復員、定住のつもりでしたが、やはり神戸から離れ難く、月に一、二度は、都会恋し、旧知をたずね来神していました。

当時の元町、三宮界限は一応人通りはあるものの、穴ポコだらけ店などろくに見当らない荒廃ぶりでした。只、ガード下の闇市だけは三国人の勢力で股賑をきわめていましたが、まるで裸の人を見る様に寒々としたビルがあるだけ。そのわずかに戦災を免れたビルも米軍に接収され、大丸もP・Xに神港ビルも軍用。又、下士官クラブのあった大丸前のニッケビルのあたりをチョコレート欲しさに若い娘がぶらつくのですが、それが度重なる商売女のように中へ引張り込まれるといった事もありました。敗け戦をよく知らない日本

人は、そうした類の幾つかの事件により、実感として敗戦を思い知らされていきました。

しかし、そうした日々が過ぎて講和条約が締結されると、それまで帽子をつけたまま店内に入ってくるのが当り前であった米兵が帽子を取って入ってくるようになり入港する船が日本の国旗を掲げているのを見た時、何ともいえない感動が胸を熱くさせました。この様にして日本は建て直されてゆき神戸も亦、再興をはじめました。

その頃、神戸を象徴していたのは、今もベトナムなどの写真に見られる、自転車サイドルに人力車をつけたようなリシタクでした。元町通りといえば聞こえはよろしいが、この新光商会とマキタ毛皮店、前に日本楽器の焼け残りの倉庫、その横に、トントン葺という板葺のあわもりの一杯呑み屋、こんな有様で通る人も少し。少ない客を拾うため、道に水を打つにも反対側に沢山水をまけばぬれていないこちら側を、店に近く人が歩くと考えたり、とにかくそのようにして商売をはじめました。

序々に、本当に序々に元町も生き返って来ました。当時元町は、新興の意気に燃えるセンター街の勢力に押されがちでした。トリア筋と京町筋の間を占めるセンター街は、大丸方面への通り道に当り

立地条件に恵まれ、人をグングン集めていました。元町が立ちおくれしている、との声が高く、私達も通行人の数を調査したりしましたが、人数的には大差ないので道巾がせまいセンター街の方が多く見えるというのが事実ではあったようです。最近になり新しく都市計画が進められ、さんちかタウン、サンブラザが造られるとセンター街は、ヤングでにぎやかな街になりましたが、客筋では元町、というようになってきました。古美術という特殊な商売は元町でなくては駄目と思ってますが、街もお客様が何を求めて歩くか考えて育ってゆかねばならないように思います。神戸に与えられた利点は西欧文化が外交官や使節団の様な作務的なものでなしに、生の姿で入ってくる事で、これは素晴らしい事だと思えます。持ち込まれるのも至って自然なら、受け入れる側もこれにおとらず自然で、あたかも雨水が地にしみ入る様に、人に街に、何の抵抗もなく吸い込まれ磁味となります。これからの街づくり、この恵まれたものを如何に取り入れるか、その有難くも準備されているのを忘れてはなりません。日常生活を振り返り、将来を見つめる事は、人間生活にも街の成長にも、とても大切な事ではないでしょうか。

□あるつどいその足あと

エウフォニカ

## 管弦楽団のこと

谷藤 雅也

〈代表者〉



人間環境都市宣言記念式典での演奏

面が重視されるようになりましたものの、児童、生徒にナマの音楽をきかせる演奏団体がなかった時期だけに、先ず学校向けの演奏活動に着手することにし、友人や知人、各方面からの新進の演奏家約三十名が集まり猛練習を重ね、二ヵ月後の六月に大阪市立十三中学校に出演したのが、本楽団の最初の演奏でした。

翌昭和三十九年九月に神戸市民劇場第三回公演に神戸土曜会合唱団、コロロ・ボルテニオ、神戸中央合唱団のオーケストラ伴奏に出演したのを機縁に、それ以来昭和四十年より神戸国際会館における神戸中央合唱団、コロロ・ボルテニオの合同による「メサイア」に出演、例年「メサイア」に出演しております。

加うるに学校の音楽鑑賞会の出演も年毎に増え、その地域も拡がり西は姫路市から神戸、阪神地区大阪市、大阪府下、奈良県に及ぶとともに、レパートリーも増え、勢い練習回数も多くなり、俄然繁忙を極める状態となりました。

よい演奏をするためにはきびしい練習を必要とするし、出演地区の拡大は相当体力も要求されますので、いわば重労働になります。が、それを克服できたのは何といっても、楽団員の平均年齢二十五歳という若さと、よい演奏をした

ときの何ものにも代え難い大きな喜びと、音楽を愛するひたむきな情熱だと思えます。

小学校で演奏しているときなど音楽の美しさにじっととききいる子ども達のつぶらな瞳を見ていると身体の内らいこと、経済的には酬われぬことなど、そう問題でないとの声もきかれます。

思えば結成以来はや九年、管弦楽団の維持は殊のほか難しいといわれるのに、とも角いろんな苦勞に堪えて、ここまでの歩みを続けてきたことは、それらの苦勞がよりよき発展のための大きな基礎固めになったことと思います。

本年七月二十一日には県民小劇場で初めての自主演奏会をもちましたし、九月二十八日には神戸市主催、国際会館での「社会福祉大会」十月十八日には、同じく「人間環境都市宣言記念式典」に四十三名のメンバーで出演しました。

今後なおチーム・ワークをとりレパートリーを拡げ、一層の発展を目指して進みたいと思っております。結成以来団員諸君の真摯な意欲と、いつも温かいご支援をよせてくださる方々に深く感謝申しあげます。

連絡先・芦屋市宮塚町73番地  
TEL 079 8・23・2743  
エウフォニカ管弦楽団事務所

当楽団の名称「エウフォニカ」とは、イタリア語で「調和のとれた快いひびき」という意味です。この名称を選んだのは演奏も楽団員の人間関係も調和がとれるようにとの願いから生まれたものです。結成されたのは昭和三十八年四月でした。当時音楽教育で鑑賞の





そばの味  
それは日本の味でもある  
その味わいに織りなした空間  
直線の構成で色を抑えた白木造りに聚楽の壁  
日本人の心のふるさとはやはり粋と寂にあるのだろう

神戸三宮 秀味街  
東京そば 正家  
入船KK設計・施工  
担当 高地 洋

ショールームに関西初のミュージックルームを設けました  
練習に演奏に、レコードコンサートに、録音に……ご利用下さい

入船株式会社

企画・設計・施工のオールマイティ  
入船株式会社 ☎ (078)851-3191  
神戸市灘区友田町5-2-2  
グランド六甲ボウル1・2F

□連載随想〈4〉

# オリンピック・ピック余話

古林喜楽〈広島商科大学学長〉



カット・小西保文

今年のハイライトになるであろう、水泳の金メダルを連載してきたので、最後に、オリンピック・ピックをこぼれ話して、この随想をおさめることにしよう。わが大学の田口君が、百米平泳で金メダルをせしめてくれたところは、ミュンヘンはオリンピック・ムードで、湧きかえっていた。会期はまだ半ばだというのに、世界中から押しつけてきた観衆は、既に東京やメキシコのときの人数を突破し、このまま続けば四百数十万人に達するであろうといわれ、競技では世界新記録が次から次へと続出して、この数でニュー・レコードをつくり、入場券の闇値までもが十一倍に暴騰して、三つの新記録が出たと、新聞は報じていた。

街は街で、二年前のミュンヘンとは、すっかり変わってしまった。駅前の本通りを見すごしたりした。店は店で、はなやかに飾りつけられ、一大お祭り騒ぎであった。素晴らしい地下鉄が出現して、方角を見うしなったりした。道行く人は人種の展覧会のように、ドイツでドイツ語が通じないことが、しばしばであった。外国のなかに外国ができたような思いがした。話しかけたらドイツ語



が通じない。聞けばポルトガル人であった。英語ならわかるかと思つて話しかけたら、又通じない。今度はギリシヤ人であった。

タクシーの運ちゃんに、話しかけたら、英語で返事する。どこから来たのかと聞いたら、ドイツ人だという。ドイツ人なら、ドイツ語でしゃべったらどうなんだ。ドイツくんたりまで来て、英語なんかしゃべりたくないよといったら、ようよう母国語にもどつた。

八月二十九日、ミュンヘンに着くなりタクシーに乗った。運ちゃんがおめでとうという。つい今ラジオで、日本の田口が百米平泳で世界レコードを出しましたよと。決勝前日の準決勝で既に世界レコードを破っていたらしい。その日は新聞を買いて、記録を見なかったのであるが、あとで田口君に聞くと、五分一秒という大記録であつたらしい。予選ではアメリカ勢の方が六分をちよつぱり切つたらしいのであるが、準決勝のこの田口君のタイムには、彼等もたまげてしまつて、田口には勝てないと思つたらしい。

平泳の二百米の方は、はじめから金は無理だと、とつて承知していたので、銅を獲得するだけでよかったと思つたのであるが、アメリカ勢の方は逆に、百米で驚異的な四秒台を出したのでから、これ又田口君には勝てないと思つていたらしい。それで仕合のすんだあと、彼らは田口君に、なぜ君は全力を出さなかったかと、いぶかつて聞いたらしい。

オリンピック・ムードで、物価も暴騰した。一晩泊まるだけのモーターの宿賃が、なんと一万五千円であつた。ミュンヘンを離れてから、ボツ

ムの一流のホテルへ泊つたら、三千円であつた。タクシーの運ちゃんが、ミュンヘンの物価は、価格の概念をこえている。あんなのは無茶苦茶ですよ、ミュンヘンで買ひものなんかする者は、阿呆ですよ、囃んではき出すようにいつた。価格の概念に入らないという表現は、ドイツ人らしいなアと思つた。私はあまり買ひものをしなかったの、阿呆の程度もおかげで少なうすんだらしい。ミュンヘンを去つた翌日、センセイショナルな一大ハプニングが勃発して、又々オリンピック・ニュー・レコードが出現した。田口君が金メダルをもらつたときのあの笑顔は、天下一品の全く素晴らしいものであつた。

ところがアラブゲリラにイスラエル選手団の人員が全員いけになつたあとのことである。五十軒競歩で優勝した西ドイツのカンネンベルクが金メダルをもらつたときの顔はまさに正反對の、つらいとか苦しいとか、目の周辺がしわだらけで、嬉しさが見られない。彼はふるさとの祝賀行事をすべて辞退したという。明暗織りまぜたこんなオリンピックは、史上唯一のものになるのではなからうか。

これにめぐりあえた私の今年の運勢も、これ又強かつたのかも知れない。



古林喜楽さん

□ ずいそう

# 海側・山側

文・伊丹 公子 〈俳人〉

写真・伊丹 三樹彦 〈俳人〉

幼時のわたくしにとって、神戸は夜明けに着く街であった。そのころ高知に住んでいて年に数度、母の故郷の京都を訪れるとき、高知航路の船からまず下りるのが夜明けの神戸港であったから。入港の銅鑼が鳴って走り出た甲板から見る海霧籠りの港は、いつも見知らぬ異国のように奇妙な新鮮さで胸に迫った。

のちに阪神間の住人になってからもその思いは永くのこった。

いまはわたくしは神戸へは船で着かないで阪急電車で着く。電車が神戸に近づくとき急に裏山が身に副ってくる。海光が目に込む。一気に山と海の懐しさが溢れるのが神戸の特徴である。神戸っ子は場所の位置を指すのに、海側、山側という。すてきな洋服を見つけたのを友達に告げるとき、なにに通りの海側の店という風に表現する。

そのひそみに做うと、わたくしは神戸の異国情緒にも海側、山側があると思う。といってもこれは場所指定での分け方でなく、情緒の分類みたいなものと自分勝手に定めている。

海側の異国情緒は港から立ちのぼる流れる異国情緒で、ここには果てしない漂泊の想いの異国が

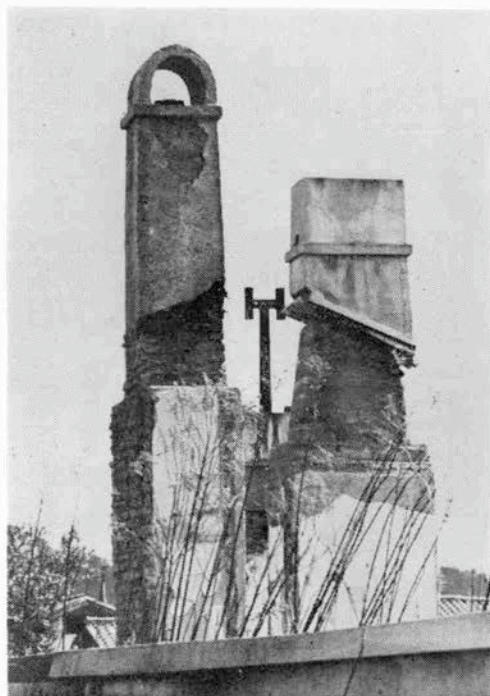
ある。大きな白鳥のような外国船が寄港して、さまざまな国の観光団や水夫が街に下りる。異国人は珍らしくない神戸でも、北欧的な、アメリカ的な雰囲気ひろがるなかで、一瞬、港は世界になる。地球の向う側から航海を終えた外国船は、ひとびとが街に散らばって、空っぽになると、マストは寂しそうに見える。銅鑼は無聊になる。

船底から湧くジャズ 石のような水夫の睡り それにくらべて山側の異国情緒には、生活の匂いがする。遠い日、異国からやって来て、神戸に棲みついた人々は、そこで火を焚き、水を進らせて日常を持った。故国の血とおなじ温かさで神戸を愛した。いまも北野町や須磨一の谷あたりに残る異人館には、古い日からの生活感情が屋根にも壁にも感じられる。何代もの異国人が育てた温もりなのである。

明治開化のころ日本へ来た異国の建築家から学び、建てたものであろう。鍛戸、出窓、バルコニーなど異人館の特色も時代によってすこしづつ違っている。新しい洋風建築を学ぼうとした明治の日本人の生き活きとした呼吸も感じられる。その気風は、街がそのまま海伝いに外国の街に続

く神戸にはいまもある。未知の異国の新しいもののをどどん学んで、何でもないことのように自分のものにしてしまう自在さ、明るさは無類である。そんな明治のなつかしい異人館も年々、崩壊して数が減ってゆく。

或る秋の日、日本でも初期の異人館が、廃屋になったまま須磨の一の谷にまだ残っているのをきいて出かけて見た。昔、異人山と呼ばれた須磨一の谷二丁目に安徳帝内裡跡伝説の地がある。小公園のようになって花壇などがあるが、そのすぐ南側のほうほうの草むらの中にその異人館はすぐ見つかった。これはまた何と素朴な異人館だったことだろう。簡素な小家で、庇などはむしろ日本風でさえあった。極く初期は日本的なものも取り入れて設計したのかしらとわたくしは思った。それでもバルコニーの手摺りや柱などは明らかに異国風な作りであった。家の裏へまわると暖爐の煙突



北野町風景

はしっかりと太目にしつらえられたコンクリート作りで上部に煉瓦を置き、四角に空へ向いて立っていた。もう老いて住むことのできない廃屋となったこの異人館も、先頃取り壊されたと伝えきいたがその後まだ確かめに行っていない。亡くなられた写真家で郷土史研究者でもあった由良昌義氏に聞いたところによるとこの館は明治五年日本で鉄道が開通した時日本政府に招かれた英国人技師の中の一人ジョン・ムルドー・ホール氏が、明治二十五年この地に建てて住んだものだという。

この廃異人館からまっすぐ山手へすこし登ると南洋植物パークがある。訪れると温室には文字通り南国の植物群がいっぱい詰まっていた。この日の様子を書いたわたくしの詩『ハイビスカス』の部分にこんながある。

——他に観覧者は誰もいなくて半円型の大屋根の天井から銀色の光線を灑して南国の植物ばかり、

もあもあと押しあつていました  
ハイビスカス    ネブセン    フレッシュ  
ユジュニス    ヘゴシダ    パパイア  
ジキタリス    旅人の木    ゴムの木  
タマゴの木    月下美人    印度トマト  
黒ん坊唐辛子    園丁のおちいさん  
がひとりだけいて花木の名前を全部  
教えてくれました——

炎えそうな海のテール    脆い氷菓  
ともあれ神戸の異国情緒は人にも  
建物にも植物にも在る。わたくしが  
幼時に見た奇妙で新鮮で美しい神戸  
はいまも尚、随所に在る。

中天に 繁忙の窓 聖夜前



# 35才で日本一に

地元神戸で王位就位式を行った  
内藤国雄八段に聞く



35才をピークに、と語る内藤国雄さん

地元神戸出身の将棋界の気鋭内藤国雄八段（33）が、過去十二年王位のタイトルを独占してきた大山康晴元王位を破りタイトルを奪ったのは神戸のクリーンヒットともいへば嬉しい話題であり、内藤新王位の「王位就位式」が十月二十八日生田区の農業会館で開かれたのでさっそくインタビューをお願いした。

——地元神戸で王位就位式をされたご感想は？

就位式の時に行なわれたように、舞台上で将棋を見るという催しは初めての試みなんです。今まで神戸で二、三

いけないと思うんです。やる前は来てくれるかどうかというところが心配でした。というのも将棋というのは自分が見てからかもしれないのであって、果して見るだけで七百人も集まるかどうかわからなかったんです。しかし会場いっぱいになって本当によかった。これは将棋会のためによかったです。

——今までに印象に残った勝負は？

私は14才の時から将棋の世界に入ったのですが、印象に残った勝負というのはやはり二年半前にやった中原君

百人の集まる大会はありましたが、みんな自分たちで将棋をさすといったもので、将棋を見るといったものはなかったんです。将棋の会というに参加者が将棋をさして楽しむといったものが普通だったんですね。だんだん将棋のプロ棋士も新聞やテレビに進出するようになってきましたが、まあ大半が新聞の活字を通じて見てもらってるわけです。しかしそれよりも自分たちの団体で観客を動員するという方向に進まないとい

との棋聖戦に勝ったこと。それと今度の大山さんとの勝負ですね。

健康法は？

勝つことです。勝てば健康になります。

「病氣」という字はうまいことでできてると思うんですが「病は氣から」といいますね。少々身体の調子がよくても負け続けると、やれ腰が痛いとか扁桃腺が腫れてきたとかいうようになる（笑）。勝ってるうちは少々忙しくても病氣にはならんもんですよ。この二、三年は病氣一つしてないです。王位ってから氣のゆるみと過労でちょっと風邪氣味ですけどね（笑）

信条とか好きな言葉は？

「人間万事塞翁が馬」「禍福はあざなえる縄のごとし」つまり人間何が幸せになるかわからないということ



舞台上で将棋の解説をする内藤王位（農業会館で）

す。将棋の場合は、簡単にいえば悪い手やったから勝つこともあるんですよ。たとえば一月、二月成績が上がったためにあと調子くずして段が下がってしまったこともあるんです。反対に大きな勝負に負けてもあとから考えたら、あれ負けてよかったという勝負もあるんです（笑）。一局の盤上でも序盤から苦しくて、苦しいから勝てたこともあるし、年間の成績でも年の前半悪かったからあと勝てたとかね。

来年の抱負は？

私、よく35才が最高じゃないかということをいってるんです。医学的にいえば20代の後半が最高だといわれています。記憶力があり、創造力があり、体力がありでね。将棋の場合は経験というものが生きてきますから35才ぐらいがまあピークだと思ってるんです。40才、50才にもなるとこて先の要領ばかりよくなってくるんでね。

ファンがよくほめてくれるんですが、僕は公約したことはわりあいよく果してるんです。

20代のときに「30才までにタイトルをとる」といいました。そして30才で中原に勝って棋聖位を取った時、内藤会という後援会の組織ができたんです。会長が宮崎市長で、副会長が神戸新聞の光田社長なんですが、その時「今年は地元の神戸新聞の棋戦はかならず優勝する」とやる前からいつたわけです。そして相当なメンバーの中で七連勝して優勝しました。それから「大山さんはかならず一度は自分の手で負かす」といいましたが、いったことはかならず果しています。もちろん飲み屋でホラ吹いていたことは別ですが（笑）。活字になったことはかならず守っています。

あとは35才で日本一になるということです。今、日本では将棋界に5つタイトルがあつて、そのうち3つとつたら日本一になれるんです。これは「将棋世界」という雑誌の対談でしゃべって活字になったので35才でがんばりますよ。



□ とくさろん □

神戸を訪れたイタリアの彫金・彫刻家  
ヴィルジオモルテットさん

## アモーレを刻む

通訳／新谷 琇紀 〈彫刻家〉

ヴィルジオ・モルテットさんは、ローマからやってきた彫金家。神戸の彫刻家新谷琇紀さんの家に居を置いてイタリアの伝統芸術の粋を紹介しようと個展を開く。作品には一五世紀フイレシツエに生まれたルネッサンス、古代ギリシア神話、エトルスク様式などの美術に見られる写実的な作風やフォルム。こうした伝統芸術の中にある細工のデリケートさをうけつぎ、ヒューマニスティックな哲学を愛し、今回の来日の目的も、「イタリアの伝統美術を日本に紹介し、古い伝統を受け継いでいる自分の芸術を日本の皆さんに見てもらいたい」と語るヴィルジオ・モルテットさんだ。

——何才位からこのお仕事を始められたのですか？

モルテット ローマのガリレオ・ガリレイ建築専門学校を卒業してからです。私の父、いや私の先祖が彫金師であったため、小さい頃から父のやっている彫金の仕事に情熱を持っていました。でも、父の仕事に魅せられて、

この道に進むことを決意したのは私が二十才の時でした。私の作品のテーマは、アモーレ（愛）です。従って、その特長も「アモーレの感情」といえると思います。イタリアの有名な文学者、ダンテ・アリゲーリのいった言葉の中に「愛は太陽と星をも動かせる」というのがあります。このように、私も人生に一番大切なことはアモーレだと信じているのです。

私は小さい頃からローマの街角に多く見られる彫刻のミニメントに魅せられ、それを私自身も作ってみたという願望を持っておりました。そこで私は、これらのローマのミニメントをまずコピーすることから始め、そして後に多くのことを自ら学びました。こうして徐々に、自分独自の作風を作り出したのです。例えば、パッカス（酒神）のシリーズの作品は私のオリジナル作といえるでしょう。私の好きな作家といえば、イタリアの昔の彫刻家ではレオナート・ブロッツィ、現代作家では、



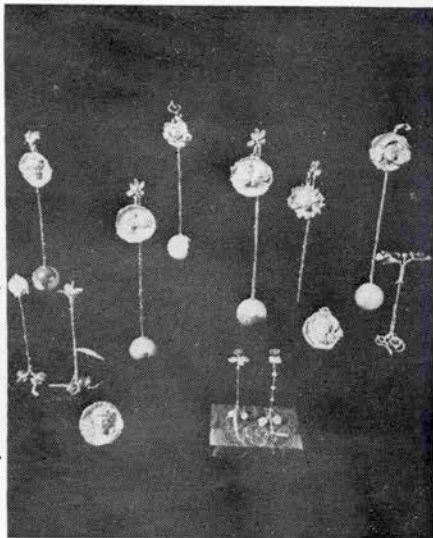
グレコ、マンズー、マリニュー、ファツツイーニ、クロチエッティーなどですが、芸術を目指している人はすべて好きです。

——独特の作り方・テクニク等は？

モルテット 私の仕事は種々雑多なテクニクから成り立っています。ロウの使い方、鑄造、金属、大理石、メッキ等の技術等は若い頃から学ばねばなりません。そして、それが年季を積んで熟して来るものです。これらのテクニクはすべて異っていて、それらを学ぶためにはとても長い日時を要するものです。特に大切な事は、良き学校と、良き技術を持った先生を選ぶべきです。

——神戸についての印象はいかがですか。

モルテット 私は日本に来てまだ一カ月しか経っていませんので確かなことはいえませんが、日本は非常に興味の持てる国だと思っています。ヨーロッパ人は日本という国を大変愛しているようです。フランス辺りでも日本を愛し、尊敬しています。私は日本に来て東京、大阪の未来のプロジェクトたる工業力、近代都市と古い神社・寺院とのコントラストを見ました。私は日本という国がこのようにコントラストがとても強力なので非常に興味を感じるのです。だけど、日本人は自分の感情を表に表わさないで、本心を見つけないのは大変難しい。私がいも日本人の心情を理解できたとしたら、とても素晴らしいことだと思います。なぜなら、日本人の心には、繊細な感



モルテットさんのギリシャ神話をテーマにしたペンダントの作品

情と優しさがいっぱいあるからです。私は日本の古代を知りたいと思っています。奈良市や京都の寺や庭園を見て回りたいですね。それによって、古代の日本を学び、近代日本を知るように努力したいのです。日本に来て面白かったのはスシ屋、それに、日本の女性は、ヨーロッパではとても貴重がられています。東洋的な親切さと振舞いからなんでしょうか……。

——あなたの作品の中に生かされているイタリアの伝統美術とは、特にどういったものでしょう。

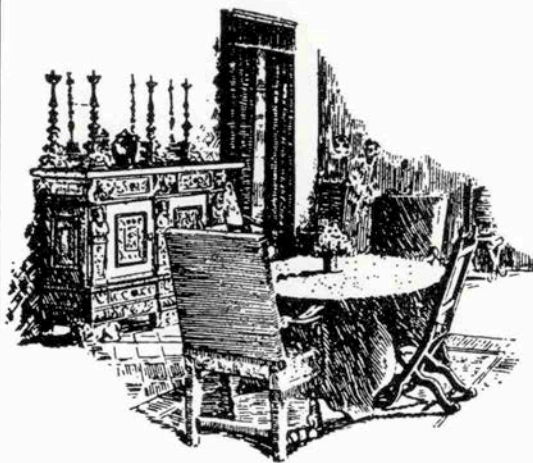
モルテット 私は古代ギリシア美術とルネッサンスを心から愛しています。これらは私に大きな影響を与えました。私の作品の中で私が愛する哲学のベースになっているのは、パッカス（酒神）シリーズです。このパッカス神の古代の祭りは、自然の生活を知る最適の材料となるのです。だから私のパッカス・ヴィーナス像等の作品群を見て頂くと、その伝統を感じて頂けると思っています。

イタリアという国は、強い個人主義に徹した国です。従って、アーティストが集まってグループ展を開いたり流行を追いかけるということはありません。それぞれが独立心を持ち個性的です。私はただ仕事を愛するから創作するのみです。というのは、アモーレのテーマの展開と共に、素材のロウを塑ねる事を愛しているのです。私はロウや金属の素材を手にする時、充たされた気持ちになるのです。

——ローマっ子の気質はどんなものですか？

モルテット まあ、ローマ人は他のイタリアの町の人々から愛され、また同時に憎まれているようです。なぜなら、歴史的に見ても、ローマは重要であつたし、我々ローマ人はこのことをよく知っているのです。こんなことは一向に気にしないのですが、やはり自分たちが最も秀れていると信じているのです。即ちオリジナルに対して誇り高い気質を持っているのです。また、ローマ人は非常に社交的で、面倒を嫌い、単純なものを好み、生活をエンジョイします。特にアモーレを！

欧風家具・婚礼調度



設計・創作

# 永田良介商店

神戸市生田区三宮町3丁目 大丸前 TEL 神戸(391)3737  
(代表)

東京店・東急百貨店 {日本橋店内6階 TEL 03(221)0511  
本店(渋谷)7階 TEL 03(462)3180}

工場 神戸市垂水区多聞町小東山975-35  
神戸木工センター TEL (078) 706-5005 (代)



さらにおいしく、  
より美くなりました。

*NEW*

ゴンチャロフ

ローヤルベンキャンディ ¥500 ~ ¥2000

ROYAL *ben*  
Candy